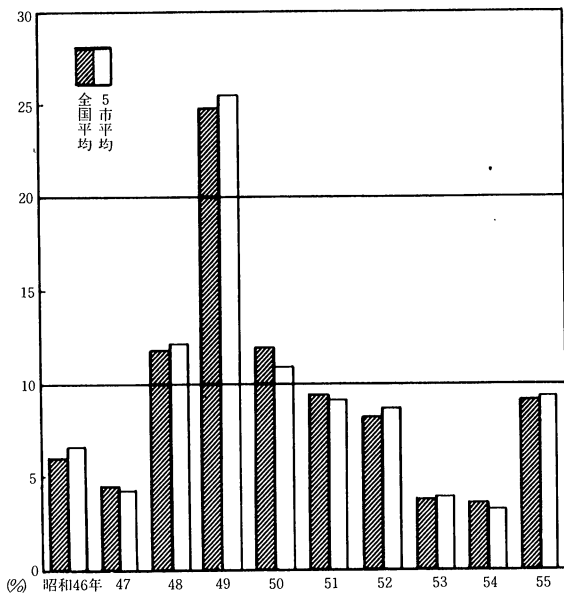


# 年平均の総合指数は(+)**8.2%**の高い上昇……

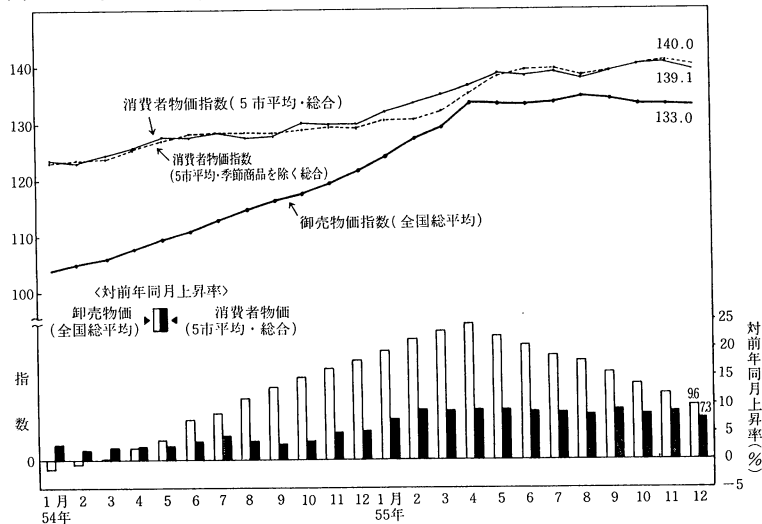
## 1. 概 況

昭和55年平均の茨城県消費者物価指数（5市平均）は、昭和50年を100とした総合指数で137.3となり、54年平均に比べ(+)**8.2%**の上昇となった。最近数年間の上昇率をみると、49年が(+)**25.2%**で最も高く、その後毎年物価の上昇は落ち着きをみせ、53年及び54年には3%台と物価は急

図一 総合指数の対前年上昇率(全国平均・5市平均)



図二 月別の動き(消費者物価・卸売物価)



速に鎮静化した。55年には、52年の(+)**8.6%**に次ぐ上昇となった。

次に、費目別の対前年上昇率をみると、光熱が(+)**41.8%**で最も高く、次いで食料及び雑費が(+)**7.0%**、被服が(+)**6.8%**、住居(+)**6.3%**となっている。光熱が最も高い上昇を示したのは、電気・ガス代が前年に比べ大幅に上昇したほか、灯油、プロパンガスなども大幅に値上りしたことによるものである。

また、季節商品(生鮮、魚介、野菜、果物)を除く総合指数は136.8となり54年平均に比べ(+)**8.1%**の上昇となっている。

対前年上昇率を全国平均と比較してみると、総合指数で近年では、52年、53年に次いで0.2ポイント全国平均を上回った。費目別では、全国平均(食料(+)**6.0%**、住居(+)**6.5%**、光熱(+)**38.2%**、被服(+)**7.3%**、雑費(+)**7.4%**)に対し、食料、光熱が全国平均を上回った。

## 2. 年間の概要

各月の動きを対前年同月上昇率でみると、昭和54年は、10月まで2~3%台に落ちていた消費者物価は、その後次第に上昇率を高め、11月は4%台、12月は5%台となり、55年には1月と2月の7%台を除き、各月8%台の高い上昇率を示した。このように騰勢に転じた主な要因は、第一に原油の値上りの影響である。灯油が2月から5月まで前年の2倍を超える上昇を示したほか、プロパンガスも大幅に値上りした。このほか、4月には電気代が大幅に値上りした。第二は野菜の高騰である。54年10月以降長雨や台風の影響で大幅に上昇した野菜は、55年2月には前年の2倍を超える上昇を示した。

## 3. 月別の動き

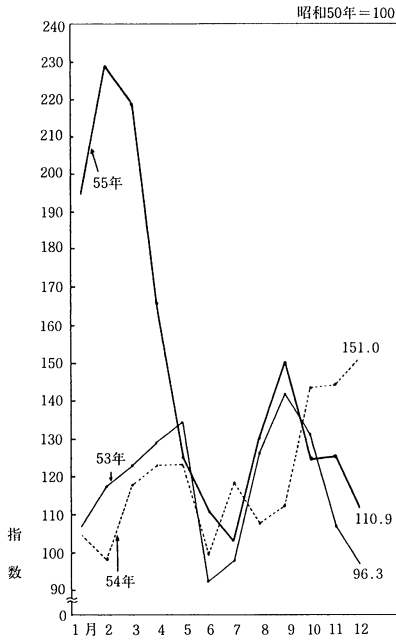
1月……電気、ガス代の値上がりに加え、野菜の大幅な値上がりにより、総合指数は前月に比べ(+)**1.8%**の上昇。

2月……冬物衣料が値下がりした反面、灯油、プロパンガスなどの値上がりにより(+)**1.1%**の上昇。

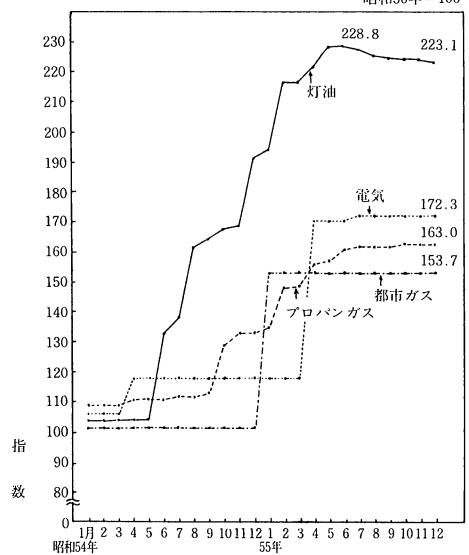
3月……野菜が6か月ぶりに下落したものの、果物、乳卵、酒類などの値上がりにより(+)**1.1%**の上昇。

昭55年茨城県消費者物価指数の動向

図一 3 野菜の月別の動き(5市平均)



図一 4 主な光熱の月別の動き(5市平均) 昭和50年=100



4. 費目別の動き

食料指数は、130.6となり、54年平均に比べ(+ )7.0%の上昇で、54年の対前年上昇率(+ )1.1%に比べ大幅に高くなっている。

これは、54年に比べ野菜が大幅に上昇したほか、54年に低い上昇率にとどまっていた乳卵加工食品、菓子及び酒類が、かなりの上昇となった。

また、2月に実施された消費者米価の改定は、比較的小幅な上昇にとどまったものの、外食がかなりの上昇となっている。

内訳をみると、野菜が(+ )23.6%の大幅な上昇となったほか、菓子が(+ )8.7%、酒類が(+ )8.3%、外食が(+ )7.9%、乳卵が(+ )6.8%、それぞれ上昇したほか、生鮮魚介、調味料、果物、飲料も上昇した。一方、塩干魚介は、塩さけ、しらす干などの値下がりにより(- )4.2%、下落した。

住居指数は、130.5となり、54年平均に比べ(+ )6.3%の上昇と、54年の対前年上昇率(+ )4.6%よりも、わずかに高くなっている。

これは板材、セメント、水道工事費、板ガラス取り替え費などの大幅な値上がりにより、設備修繕が大幅に上昇したほか、ガラスコップ、鍋などの値上がりにより、家具什器が、それぞれ前年上昇率を上回る上昇となったためである。

内訳をみると、設備修繕が(+ )12.2%、家賃が(+ )5.0

- 4月……電気代の大幅な値上がりに加え、授業料など、教育費の値上がりにより(+ )1.3%の上昇。
- 5月……野菜は3月以降、引き続き値下がりしているが、たばこの小売価格改定、国鉄運賃及び放送受信料の改定などにより(+ )1.5%の上昇。
- 6月……衣料、新聞代的大幅な値上がりがあったが、野菜、生鮮魚介、果物などの値下がりにより(- )0.1%の下落。
- 7月……野菜、乳卵は値下がりしたが、果物、肉類、加工食品などの値上がりにより(+ )0.4%の上昇。
- 8月……野菜が大幅に上昇したが、夏物衣料、果物、塩干魚介などの値下がりにより(- )0.9%の下落。
- 9月……野菜、塩干魚介の値上がりに加え、冬物衣料が高値で出回ったため、(+ )1.0%の上昇。
- 10月……果物、乳卵、文房具などの値上がりにより、(+ )0.8%の上昇。
- 11月……果物、生鮮魚介は値下がりしたが、民営家賃、バス代などの値上がりにより(+ )0.3%の上昇。
- 12月……野菜、果物などの値下がりに加え、衣料、通話料、ガソリンなども値下がりしたため(- )1.0%の下落。

# 調査から

%、水道料が(+) $4.2\%$ 、家具什器が(+) $4.0\%$ 、それぞれ上昇した。

光熱指数は、165.1となり、54年平均に比べ(+) $41.8\%$ の上昇で、54年の対前年上昇率(+) $4.6\%$ より大幅な上昇となっている。

これは、燈油、プロパンガスなどの大幅な値上がりに加え、木炭、石炭、練炭なども値上がりしたため、「その他の光熱」が(+) $43.3\%$ 上昇したほか、電気代が(+) $37.4\%$ 、ガス代が(+) $50.7\%$ 、それぞれ大幅に上昇した。

被服指数は、139.9となり、54年平均に比べ(+) $6.8\%$ の上昇で、54年の対前年上昇率(+) $5.4\%$ よりも高くなっている。

これは、指輪が前年に比べ(+) $80\%$ 以上の値上がりとなったほか、運動靴、ハンドバッグなどの値上がりにより、身の回り品がかなり大きく上昇したことによるものである。

なお、衣料は、54年に比べ(+) $4.3\%$ と54年の対前年上昇率(+) $5.3\%$ よりもわずかに下回っている。これは、洋服は値上がりしたが、中振袖、婦人長じゅばん、婦人ゆかたなど、和服が値下がりしたためである。

内訳をみると、身の回り品が(+) $13.6\%$ とかなり大きな上昇となったほか、ワイシャツ・ブラウスが(+) $6.4\%$ 、洋服が(+) $6.0\%$ 、シャツ・下着が(+) $4.8\%$ それぞれ上昇し、これらを合わせた衣料が(+) $4.3\%$ の上昇となっている。

雑費指数は、143.3となり、54年平均に比べ(+) $7.0\%$ の上昇で、54年の対前年上昇率(+) $4.2\%$ より高くなっている。

これは、55年4月に授業料(公立高校、国立大学、私立大学)が、値上げされたが、これは54年の対前年上昇率を上回るかなり大きな上昇率であったこと、また、55年5月(4月22日実施)にたばこの小売価格が大幅に引き上げられたほか、ガソリン、オイル交換など、自動車等関係費が、かなり上昇したこと、そのほか、放送受信料の改定、新聞代の値上げなどにより、教養娯楽なども上昇したためである。

内訳をみると、たばこが(+) $14.5\%$ 、教育が(+) $13.0\%$ 、自動車等関係費が(+) $9.9\%$ 、教養娯楽(+) $7.2\%$ 、理容衛生が(+) $6.5\%$ 、それぞれ上昇した。

## 5. 寄与率

各費目の上昇が総合指数の上昇率(+) $8.2\%$ に及ぼす影響を寄与率でみると、食料が(+) $32.7\%$ (前年(+) $13.6\%$ )、

図-5 年次、費目別指数(5市平均)

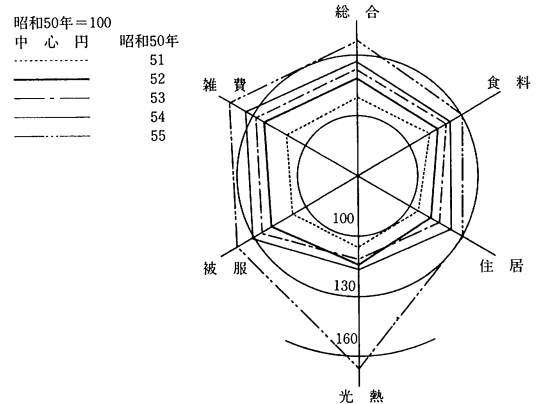
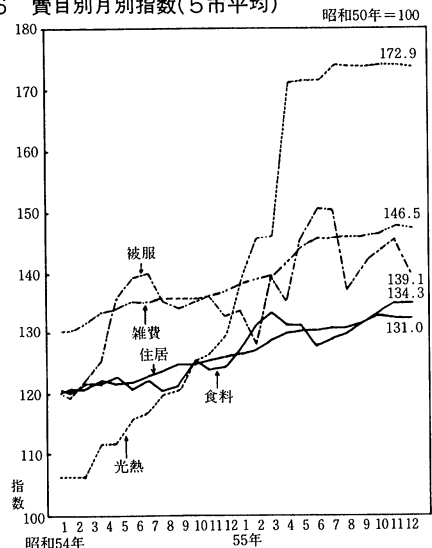


図-6 費目別月別指数(5市平均)



雑費が(+) $28.8\%$ (前年(+) $44.5\%$ )、光熱が(+) $20.1\%$ (前年(+) $5.7\%$ )、被服が(+) $10.9\%$ (前年(+) $22.2\%$ )、住居が(+) $7.5\%$ (前年(+) $14.0\%$ )となっており、54年に比べると、食料の寄与率が大幅に高くなっている。

これを中分類でみると、電気ガス代が(+) $11.0\%$ で最も大きく寄与し、次いで、その他の光熱の(+) $9.1\%$ 、野菜の(+) $7.7\%$ 、外食の(+) $7.2\%$ などが目立っている。

## 6. 特殊分類指数

特殊分類に組み替えた指数で55年平均の物価の上昇をみると、商品が(+) $7.7\%$ 、サービスが(+) $8.1\%$ 、それぞれ

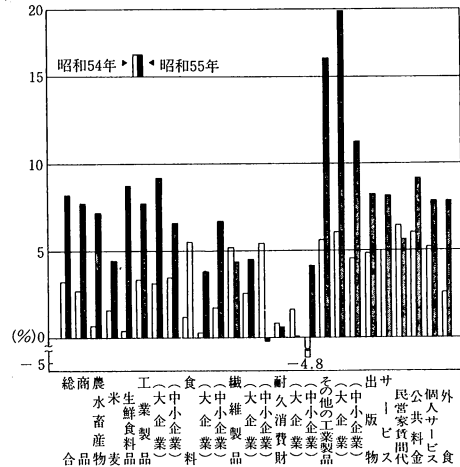
上昇している。54年の対前年上昇率は商品が(+ )2.7%、サービスが(+ )5.0%であったから、商品及びサービス共に54年の対前年上昇率を上回る上昇となっている。

内訳をみると、商品では、農水畜産物が(+ )7.8%、工業製品が(+ )7.7%、出版物が(+ )8.2%、それぞれ上昇しており、サービスでは、民営家賃間代が(+ )5.6%、公共料金が(+ )9.1%、個人サービス、外食が共に(+ )7.8%それぞれ上昇している。

### 7. 市別の動き

55年の消費者物価指数の市別の動きを対前年上昇率(総合)でみると日立市が(+ )8.7%(前年(+ )3.1%)で最も大きく、次いで、下館市が(+ )8.6%(前年(+ )4.0%)、水戸市が(+ )8.1%(前年(+ )3.3%)、古河市が(+ )8.0%(前年(+ )3.3%)、土浦市が(+ )7.7%(前年(+ )2.6%)となり各市とも54年の対前年上昇率を上回っている。これは、光熱の上昇率が前年の上昇率を大幅に上回ったためである。日立市は他市に比べ菓子、調味料、衣料、教養娯楽などが、高い水準を示している。

図一七 特殊分類指数の対前年上昇率(5市平均)



表一 総合指数

昭和50年=100

年 月	5市平均		水戸市		日立市		土浦市		古河市		下館市	
		※		※		※		※		※		※
昭和45年平均	57.9		57.3		58.8		57.7		57.4		57.7	
46	61.7		61.2		63.1		60.2		61.6		61.2	
47	64.4		63.4		65.5		64.4		64.0		64.3	
48	72.1		71.1		73.2		71.9		72.0		72.5	
49	90.3		89.5		91.0		89.3		90.7		92.0	
50	100.0		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0	
51	109.0	9.0	109.1	9.1	108.6	8.6	109.8	9.8	108.8	8.3	108.9	8.9
52	118.4	8.6	118.1	8.2	118.1	8.7	120.8	10.0	116.7	7.8	118.1	8.4
53	123.0	3.9	122.5	3.7	122.9	4.1	125.1	3.6	121.5	4.1	122.1	3.4
54	126.9	3.2	126.6	3.3	126.7	3.1	128.3	2.6	122.5	3.3	127.0	4.0
55	137.3	8.2	136.9	8.1	137.7	8.7	138.2	7.7	135.6	8.0	137.9	8.6
昭和55年 1月	131.9	7.1	132.1	7.4	131.8	6.8	131.9	6.5	131.9	7.8	131.8	7.7
2	133.3	8.6	132.9	8.5	132.9	8.4	134.2	8.1	133.3	9.6	134.1	9.2
3	134.7	8.5	134.7	8.9	134.2	8.4	135.8	7.6	133.9	9.2	135.5	9.1
4	136.4	8.7	135.3	8.3	136.5	9.0	138.4	8.0	135.1	9.0	137.1	9.3
5	138.4	8.7	137.5	8.8	138.5	8.5	141.1	8.7	135.2	8.4	139.2	9.4
6	138.2	8.5	137.6	8.5	138.5	8.5	139.8	7.9	135.8	9.2	138.8	9.1
7	138.8	8.3	138.8	8.4	138.5	8.0	141.3	8.9	135.3	7.5	138.2	8.1
8	137.6	8.0	137.3	8.1	137.9	9.0	138.6	7.0	135.8	7.3	137.4	6.7
9	139.0	8.9	138.4	9.1	139.1	9.4	139.7	7.8	137.7	8.9	140.6	8.8
10	140.1	8.0	139.2	6.3	141.9	10.3	139.9	7.7	137.6	6.8	141.1	8.6
11	140.5	8.5	139.9	7.9	141.8	9.2	140.0	8.1	138.2	7.5	140.7	9.4
12	139.1	7.3	138.5	7.0	140.6	8.4	138.0	6.2	137.6	6.2	139.8	7.7

※ 対前年(対前年同月)上昇率(%)

(統計課・農林消費グループ)